

「クリニカルラダー『レベルⅡ』」に対応した教育プログラム

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	①ラダーレベルに合った対象へのケアについて、ケア提供した事例を具体的に思い浮かべながら、助産師としての姿勢を自己評価できる （ケアリング実施のための自己課題を明確にできる）	・カンファレンス（教育担当者や同僚とともに行う：自らの実践事例より、ケアリング行動や、妊産褥婦・家族にとっての意味を考える／今後の自らの助産実践における課題を明確にする）	・カンファレンスへの参加度や発言内容から教育担当者が評価し、本人へコメントを返す
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	【情報収集】 ①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報について、個別的な助産ケアを実践するために必要な情報をもれなく収集できる ②アセスメントに必要な情報を整理できる	・左記内容について事例を用いたレポート（場面を再構成できるように記述する）	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して、上司・同僚などと検討する
		【アセスメント／問題（ニーズ）の明確化】 ローリスク ①収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ②妊産褥婦・新生児のニーズを明確にできる ③ニーズの優先順位を決定できる ハイリスク ①妊産褥婦・新生児に起こっている問題を明確にできる ②問題の優先順位を決定することができる 【診断】 ①健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる ②診断した内容から問題の優先順位を考えることができる 【計画立案】 ①妊産褥婦・新生児の個性を踏まえた助産計画を立案できる ②立案した助産計画を評価・修正できる ③妊産褥婦および家族参加型の助産計画を立案できる 【実践】 ①助産ケア計画に則り実践できる ②妊産褥婦・新生児の状態や反応を判断しながら、必要なケアが行える ③現在挙げられているニーズや問題以外の新しい情報を、時期を逸せず記録し、計画の追加や修正ができる ④緊急時にメンバーとして行動できる 【評価】 ①提供した助産ケアの結果を、根拠に基づき評価できる ②目標の達成度の結果を評価でき、計画を修正できる ③行ったケアを要約して説明・記述できる ④クリニカルパス使用の場合、バリエーションを評価できる	・レポート（場面を再構成できるように記述する／妊娠・分娩・産褥・新生児すべてを網羅する〔各期で分けて書いてもよい〕）	
専門的自律能力	教育・指導	①継続教育プログラムや院内・院外研修に、目的をもって自主的に参加できる ②自施設における教育指導に参加できる（新人や後輩、学生への指導） ③ローリスクを対象とした保健指導が実施できる（個別・小集団） ④教育における評価が理解できる	・内部または外部講義（教育と指導〔成人教育・職員教育・学生指導〕） ・臨床指導者研修（3年目…講義のみ聴講、4年目…全て受講） ・集団指導（父親学級1～3週）の原稿作成 ・集団指導（母親学級1～4週）の実施	・知識の確認、振り返り
	自己開発	①自己課題を明確にできる ②主体的に、課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らおよび施設における助産実践に活用できる	・キャリアカウンセリング／目標管理面接	・振り返り

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践項目

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価	
専門的 自律能力	研究	①日常の実践から、研究疑問を見いだすことができる ②メンバーの一員として研究に参画できる	・外部講義（臨床で研究を行う意義／看護研究の方法〔基礎：実施を含む文献検索と文献の活用、データの収集と分析方法等〕） ・内部または外部講義（研究計画の立て方） ・OJT（研究実践する／学会等に1回は参加する）	・知識の確認、振り返り ・学会等の参加状況の確認 ・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する	
	コミュニケーション （対人関係）	①妊産褥婦の言動を手がかりに潜在するニーズや問題に気づき、理解することができる ②助産計画の修正・追加時などに、主体的に対象・家族が納得できる説明を行い、同意を得られる	・内部または外部講義（コミュニケーション／困難事例への対応など） ・OJT ・左記内容について事例を用いたレポート		
	倫理	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる（遅刻・早退・無断欠勤をしない等） ②規定に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任を持つことを理解できる ④助産師として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる	・内部または外部講義（生命倫理）	
		助産倫理	①妊産褥婦・家族の価値観を理解できる ②価値の多様性、お互いの価値を尊重することの重要性を理解し、行動できる ③支援を受けながら、法的根拠に基づいた実践ができる	・左記内容について事例を用いたレポート	・左記目標に挙げた内容について、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかをレポートから抽出して上司・同僚などと検討する
	管理（マネジメント）	安全	【安全管理・安全確保】 ①インシデント事例や事故事例について、経過を振り返ることができる ②インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら今後に活かせる対策を考案することができる ③周産期に起こり得る事故を予測でき、対策をとることができる（新生児の取り違え、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） ④事故発生時、対象の生命を優先して判断し行動できる 【感染予防】 ①自施設の体制に則って行動できる 【災害・防災管理】 ①災害時に、主体的に初期対応が実践できる 【情報管理】 ①自施設の体制に則って行動できる	・講義と演習（インシデント・アクシデント分析方法） ・OJT（感染対策／災害対策） ・シミュレーション（災害訓練／妊産褥婦・新生児の緊急時の対応）	・シミュレーションでは、リーダーとしての役割が実践できることを実際に確認、振り返り
		経済性	①費用対効果を考慮して、自ら工夫して物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、対象の意見を聞き、自ら工夫しながら物品を適切に使用できる ③自ら調整して、時間内に必要な助産ケアができる	・講義とOJT（周産期にかかわる医療制度）	・知識の確認、振り返り
リーダー		①よりよいチームワークを目指して的確に行動できる ②リーダーシップの概念が理解できる ③助産チームの業務が円滑かつ的確に実施できるよう、チームメンバーに指示できる	・講義とOJT（リーダーシップ／問題解決技法）		

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践項目